

令和6年度全国学力・学習状況調査
令和6年度徳島県学力ステップアップテスト
結果及び分析の概要

徳島県教育委員会義務教育課

令和6年度 全国学力・学習状況調査における徳島県の結果概要

徳島県教育委員会

平均正答率(小学校)

	令和5年度			令和6年度		
	徳島県	全国	全国との差	徳島県	全国	全国との差
小学校 国語	66	67.2	-1.2	68	67.7	+0.3
小学校 算数	62	62.5	-0.5	65	63.4	+1.6

平均正答率(中学校)

	令和5年度			令和6年度		
	徳島県	全国	全国との差	徳島県	全国	全国との差
中学校 国語	68	69.8	-1.8	57	58.1	-1.1
中学校 数学	51	51.0	±0	54	52.5	+1.5

結果分析の概要

- 小学校については、国語、算数ともに正答率が全国平均を上回っている。
- 中学校については、国語の正答率は全国平均を下回ったが、数学の正答率は全国平均を上回っている。
- 小学校、中学校ともに授業改善が進み、一定の学力の定着が見られる。

教科ごとの結果分析

小学校国語

学習指導要領の内容	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島(公立)	65.8	86.4	74.6	59.7	66.6	70.1
全国(公立)	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7
差	1.4	-0.5	0	-0.1	-1.8	-0.6

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
徳島(公立)	70.7	65.3	
全国(公立)	69.8	66.0	
差	0.9	-0.7	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	69.4	62.4	63.6
全国(公立)	69.9	59.7	64.6
差	-0.5	2.7	-1.0

◇成果が見られる点

文章中の「なげる」を、漢字を使って書き直す問題の正答率が高かった。

また、話し言葉と書き言葉の違いに気付き、話し方の工夫をすることや、日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つということに気付くことはできていた。

「知識・技能」に関しては7割を超え、全国平均を上回っている。

▲課題が見られる点

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が低かった。取材メモの内容を取り上げて、自分の考えを明確に書くことができなかったと考えられる。

また、説明文において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することや、物語文において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題がある。

○授業改善のポイント

【定着に課題がある指導事項の明確化】→ カリキュラムマネジメントの推進

- ・課題を学校全体で共有し、系統性を意識した組織的な学習指導の改善充実を図る。
- ・定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画に反映させるなどして、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、定着を図る。

【児童のつまずきに応じた学習指導】→ 「徳島版読解力」の活用

- ・「必要な情報を取り出す力(読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力)」や、「比較・関連付けて理解する力(取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力)」の育成に力を入れる。
- ・『徳島版読解力』を育成するための学習活動モデル』を授業に取り入れる。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現】

- ・「質問調査」の結果を分析し、学習指導の改善・充実に役立てる。
- ・他者から、考えや表現の仕方を学び、交流を生かして考えを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりする。

小学校算数

学習指導要領の領域	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用
徳島(公立)	69.2	66.3		52.3	63.3
全国(公立)	66.0	66.3		51.7	61.8
差	3.2	0		0.6	1.5

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	75.5	51.4	
全国(公立)	72.8	51.4	
差	2.7	0	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	77.3	63.6	52.1
全国(公立)	75.3	62.0	51.0
差	2.0	1.6	1.1

◇成果が見られる点

・【4(1)】除数が小数である場合の除法の計算をする問題(5年生「A 数と計算」)の正答率が全国平均よりも高かった。(＋8.8%)

筆算等を使った基本的な除算が理解できている。被除数と除数それぞれ10倍して計算する等、工夫した方法も大切である。

・【1(1)】問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題(2年生「A 数と計算」)の正答率が全国平均よりも高かった。(＋4.8%)

加法及び減法に関わる数学的活動を通して、加法と減法との相互関係について理解できている。

・【5(1)】円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題(5年生「D データの活用」)の正答率が全国平均よりも高かった。(＋4.0%)

データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、円グラフの特徴を捉えることと、データの活用方法が理解できている。

▲課題が見られる点

・【3(3)】球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題(3・5年生「B 図形」)の正答率が全国平均よりも低かった。(－2.7%)

徳島県では、 3.14 を用いた式を解答している児童が多く(20.5%)、円の直径と円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。この問題では、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした箱の一辺の長さが、ボールの直径の長さと同じになることを捉えることが重要である。

・【4(2)】速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考察する問題(5年生「C 変化と関係」)の正答率が全国平均よりも低かった。(－2.6%)

徳島県では、10と解答している児童が多く(12.9%)、1分間で180m進むと誤って捉え、1800mを移動するのにかかる時間を求めていると考えられる。速さが一定であることから、時間と道のりが比例関係にあることを用いたり、1分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係をを用いることが重要である。

・【4(3)】道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題(5年生「C 変化と関係」)の正答率が低かった。(32.7%)

徳島県では、二人のうち片方が速いことや、二人の歩いた道のりが等しいことのみ言葉や数で説明できているが、二人のかかった時間がどちらが短いかを説明することができていない児童が多く(28.1%)、歩いた道のりとかかった時間両方に着目し、道のりが等しい場合には、時間が短いほど速さが速いと考えたり、それぞれの速さを求めたりすることが重要である。

○授業改善のポイント

A 数と計算

- ・問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにする指導の充実
- ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにする指導の充実

B 図形

- ・図形を構成する要素を見だし、それらを活用して体積を求めることができるようにする指導の充実

C 変化と関係

- ・二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察できるようにする指導の充実
- ・二つの数量の関係に着目し、速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにする指導の充実

D データの活用

- ・グラフを読み取り、見いだしたことを表現できるようにする指導の充実
- ・問題を解決する過程やその結果を式に表すことができるようにする指導の充実

中学校国語

学習指導要領の内容	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島(公立)	58.2	58.7	79.2	57.2	61.1	48.3
全国(公立)	59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9
差	-1.0	-0.9	3.6	-1.6	-4.2	0.4

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
徳島(公立)	61.9	54.1	
全国(公立)	62.0	55.4	
差	-0.1	-1.3	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	60.7	62.1	41.8
全国(公立)	61.0	61.8	45.5
差	-0.3	0.3	-3.7

◇成果が見られる点

行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものと、適切なものを選択する問題の正答率は高かった。

また、文章中の「みちたりた」を、漢字を使って書き直す問題はできていた。

▲課題が見られる点

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が低かった。表現を工夫したり、自分が工夫した表現について、どのような効果があるのかを説明したりすることができなかつたと考えられる。

また、目的に応じて必要な情報に着目して要約することや、話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の課題をまとめることに課題が見られた。

○授業改善のポイント

【定着に課題がある指導事項の明確化】 → カリキュラムマネジメントの推進

- ・課題を学校全体で共有し、系統性を意識した組織的な学習指導の改善充実を図る。
- ・定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画に反映させるなどして、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、定着を図る。

【生徒のつまずきに応じた学習指導】 → 「徳島版読解力」の活用

- ・「必要な情報を取り出す力(読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力)」や、「比較・関連付けて理解する力(取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力)」の育成に力を入れる。
- ・「『徳島版読解力』を育成するための学習活動モデル」を授業に取り入れる。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現】

- ・「質問調査」の結果を分析し、学習指導の改善・充実に役立てる。
- ・他者から、考えや表現の仕方を学び、交流を生かして考えを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりする。

中学校数学

学習指導要領の領域	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
徳島(公立)	55.0	40.4	61.4	55.0
全国(公立)	51.1	40.3	60.7	55.5
差	3.9	0.1	0.7	-0.5

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	64.5	30.6	
全国(公立)	63.1	29.3	
差	1.4	1.3	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	58.7	69.2	30.6
全国(公立)	58.5	67.0	29.3
差	0.2	2.2	1.3

◇成果が見られる点

・【2】等式を目的に応じて変形する問題（2年生「A 数と式」）の正答率が全国平均よりも高かった。（+8.6%）

方程式を解いたり、関数関係を表す式とみて考察したりする場面において、文字について解くことを理解し、等式を変形することができている。

・【1】連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す問題（2年生「A 数と式」）の正答率が全国平均よりも高かった。（+6.4%）

数量及び数量の関係を捉え説明する場面で、事象における数量やその関係を文字を用いた式で表すことが全国平均よりもできている。

・【4】一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解する問題（2年生「C 関数」）の正答率が高かった。（+5.3%）

関数の特徴を調べるための式とグラフの特徴を関連付けて理解することができている。

▲課題が見られる点

・【9（2）】事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす問題（2年生「B 図形」）の正答率が全国平均よりも低かった。（-2.0%）

徳島県では、誤答類型において、どの項目においても一定数解答していることから、問題の理解がきちんとできていない可能性がある。

・【8（2）】ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表す式やグラフから事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題（2年生「C 関数」）の正答率が低く（16.1%）、全国平均よりも低かった。（-1.0%）

事象の中にある関数関係を見だし考察する場面において、問題解決の方法について説明することができていない。式を用いる場合は、二つの式に、 $y=0$ を代入してそれらの式から x の値を求めること。グラフを用いる場合は、二つのグラフの y 座標が0である点に着目して x の値の差を求めることや2点間の距離を読み取ることを記述する必要がある。「◇成果が見られる点」にあげている、「関数の特徴を調べるための式とグラフの特徴を関連付ける」ことができているが、実際生活の課題を解決する方法を説明する問題になると急激に正答率が下がることから、理解していることを数学的に説明することに課題が見られる。また、無解答率も高く、他の記述式問題でも無解答率が非常に高い問題もあるため、説明・証明等、記述式の問題にしっかり取り組む必要がある。

○授業改善のポイント

A 数と式

- ・数量及び数量の関係を文字を用いた式で表す活動の重視
- ・事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する活動の充実

B 図形

- ・図形の移動の性質を見いだす活動の重視
- ・筋道を立てて考え、証明する活動の充実

C 関数

- ・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付ける活動の重視
- ・事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

D データの活用

- ・データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の重視
- ・四分位範囲を用いて分布の特徴を捉える活動の充実

○「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回った。

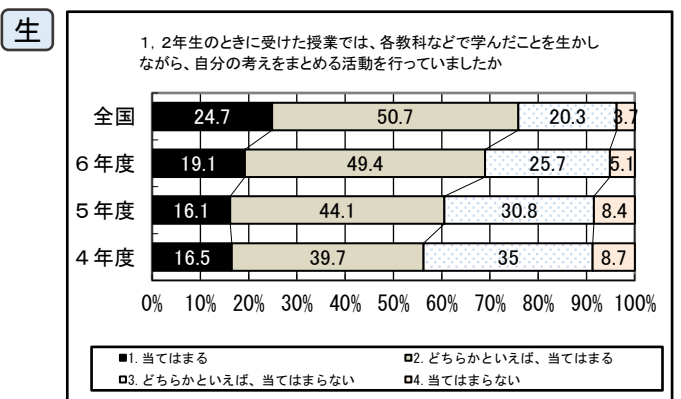
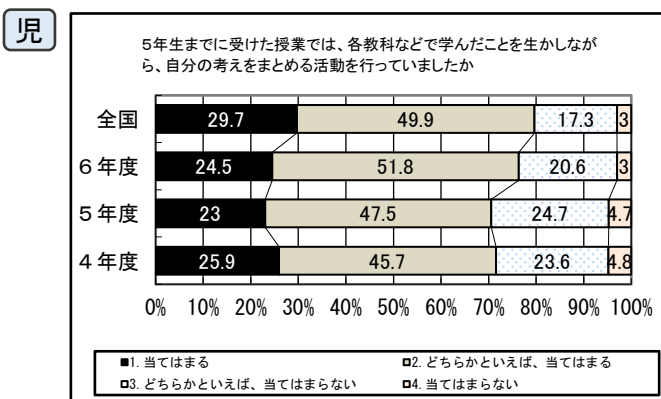
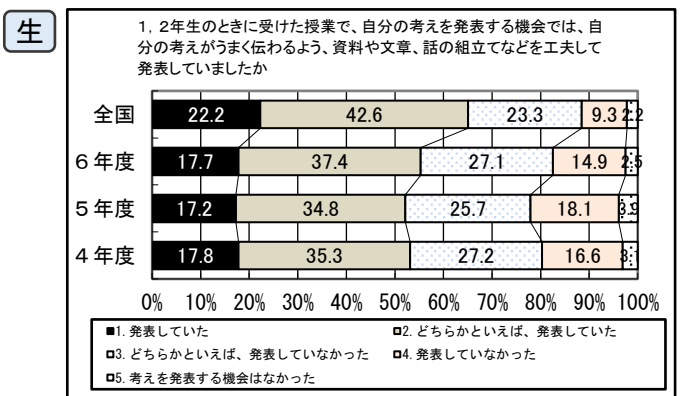
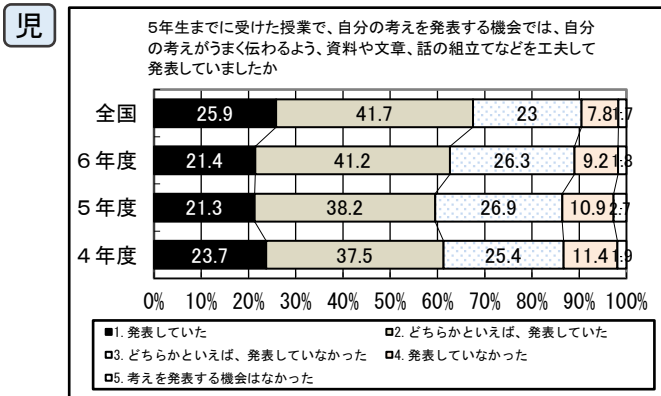
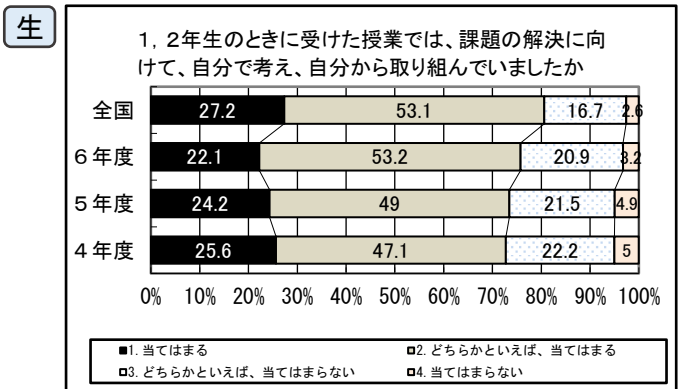
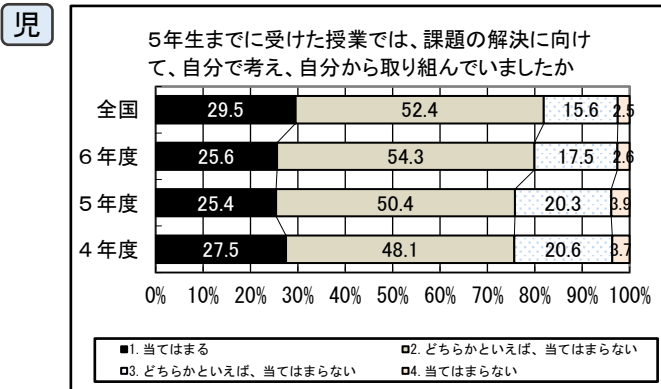
○「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校は全国平均を下回り、中学校は全国平均とほぼ同じであった。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を上回った。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、前年度より向上したが、小・中学校とも全国平均を下回った。

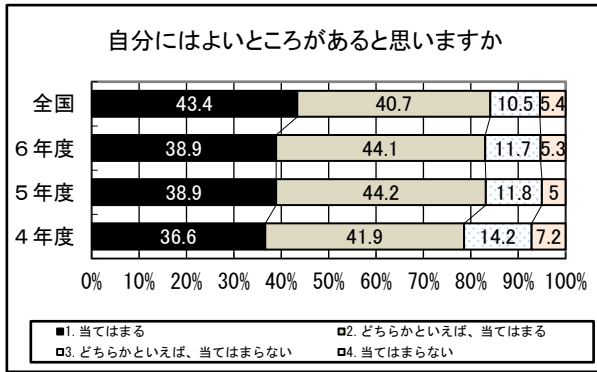
○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、前年度より向上したが、小・中学校とも全国平均を下回った。

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

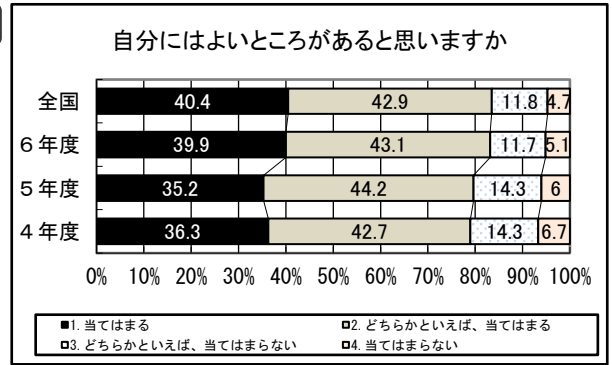


【自己有用感・幸福感等】

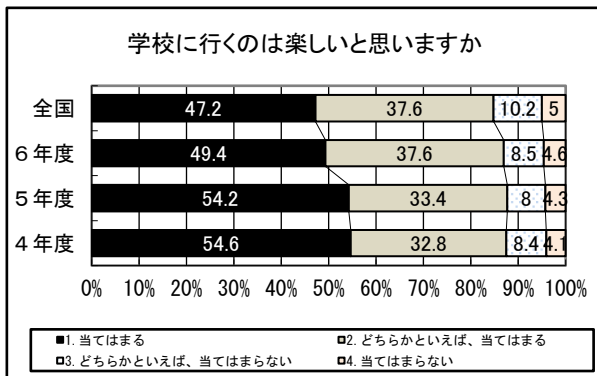
児



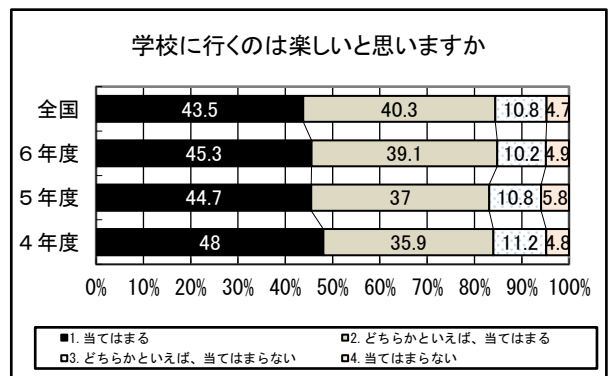
生



児

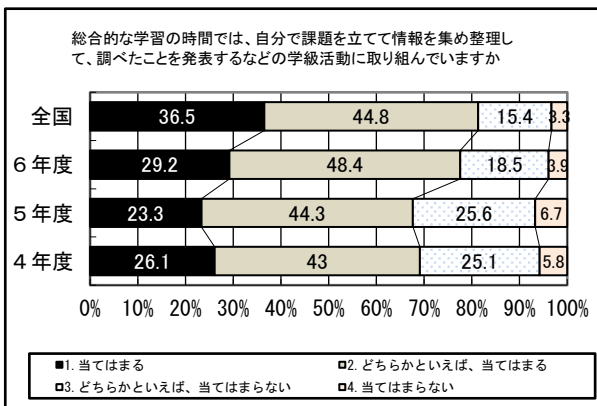


生

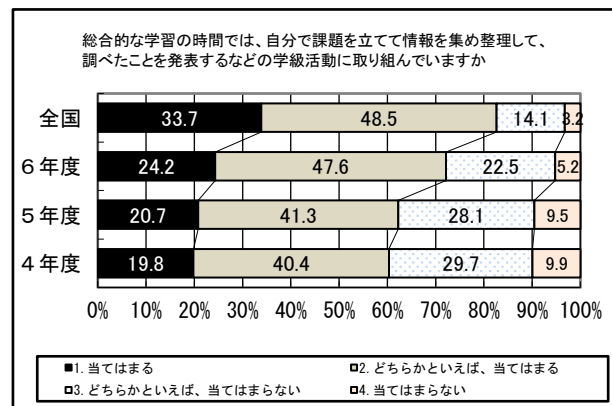


【総合的な学習の時間、学級活動】

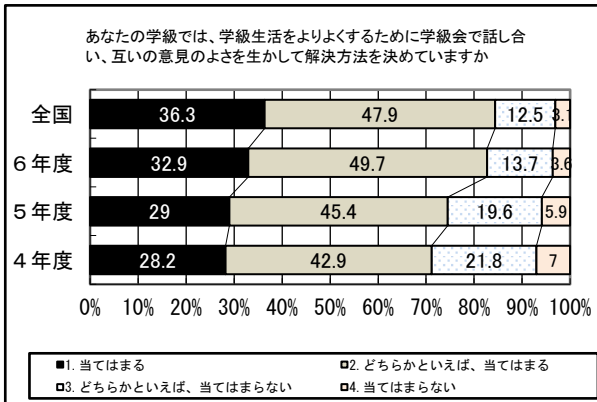
児



生



児



生

